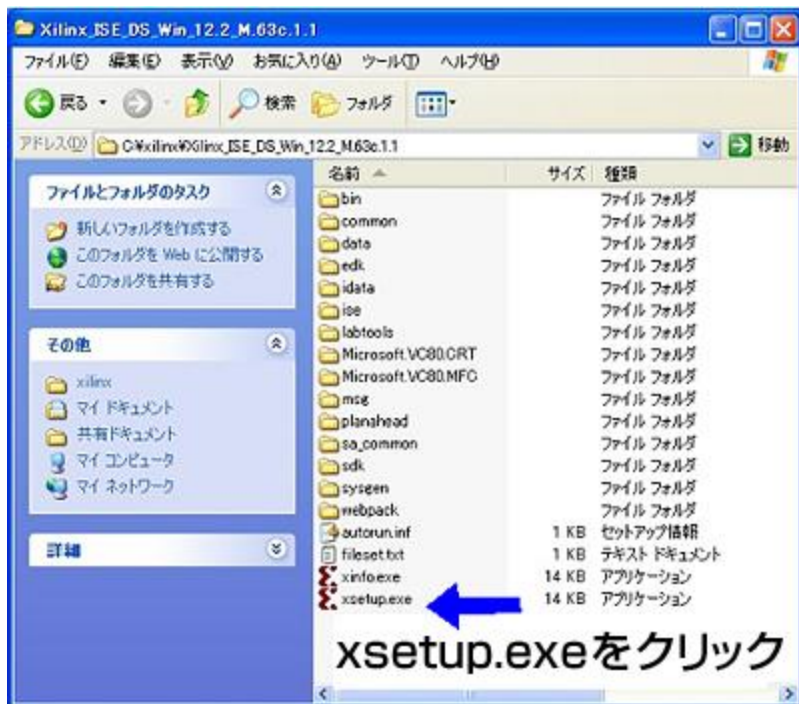


1. セットアップの起動

2. ダウンロードして解凍したディレクトリ内の xsetup.exe ファイルをクリックして、セットアップを起動します。



3. Edition の選択

さまざまな Edition から一つだけ選択できますが、ここでは、ISE WebPACK を選択します。他の Edition 用のツールもダウンロードしたファイルに含まれていますので、後にライセンスを購入することで、使用することが可能になります。



4. インストール オプションの決定

今回はまだ、ザイリンクスのダウンロードケーブルや IP などを購入したわけではありませんので、「ライセンスキーの取得および管理」のみをチェックして、次のステップに移ります。また、WebTalk というオプションは ISE WebPACK では常に有効で削除できません。



5. インストール ディレクトリを指示して実行



6. ライセンスの取得

上記ステップ 4 までで、物理的なインストール処理の終了です。ただし、ライセンスを取得しないと正しい動作をしません。

インストールの始めにライセンスの取得をするように設定したので、Xilinx License Configuration Manager (XLCM) が続けて起動します。

XLCM の [Acquire a License] タブから「 Get Free ISE WebPACK License 」を選択します。



7. ライセンスサイトへの接続を実行



8. 最初に登録した ID でログイン

Sign in to the Xilinx Licensing Site

User ID: Xilinx_Taro

Password: ****

[Forgot your password?](#)

> Sign In

9. ライセンスの生成と発行

Product Licensing Site の [Create a New License File] タブが開きます。ここで ISE WebPACK のみにチェックマークが入っていることを確認し、ページ下の「Generate Node-Locked License」のボタンをクリックします。

Create a New License File

Create a new license file by making your product selections from the table below. [?](#)

Product	License
<input type="checkbox"/> ISE Design Su	Node
<input checked="" type="checkbox"/> ISE Design Suite: WebPACK License	No Charge Node

Generate Node-Locked License

これで、ライセンス発行処理が行われ、ライセンスファイル（Xilinx.lic）がアカウント登録したメールアドレスへファイル送信されます。届いたら適切なフォルダに保存してください。

XLCM の [Manage Xilinx Licenses] というタブ内の [Copy License] で保存したライセンスファイル（Xilinx.lic）を選択すると、ルートディレクトリの“.Xilinx”（ドットザイリンクス）フォルダにコピーして、ISE ソフトウェアからライセンスが見えるようにし、有効化します。



注意) ライセンスファイルの送信元は xilinx.notification@entitlenow.com です。
迷惑メールなどに振り分けされないようご注意ください。

以上で、「ソフトウェア入手」、「インストール」、「ライセンスの取得」まで終了しました。

10. ISE WebPACK の動作確認

インストールした開発ソフトウェアが動くかを試しましょう。

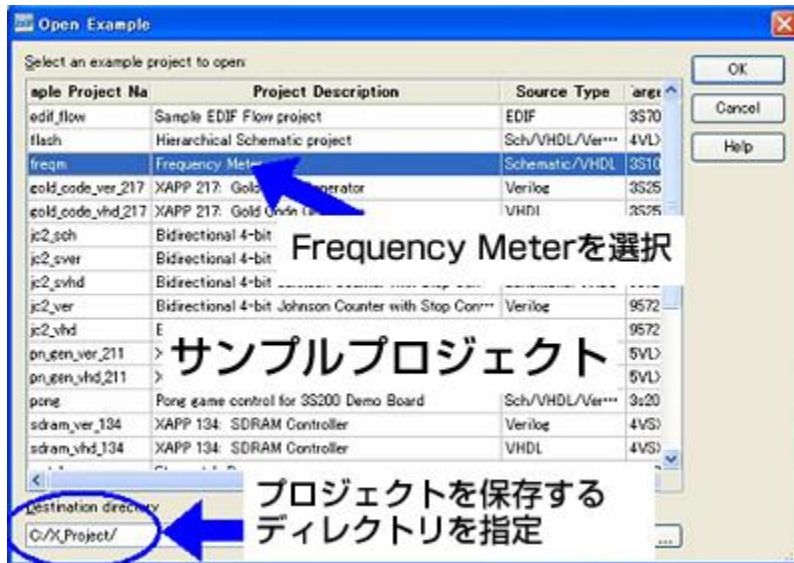


デスクトップに作成された「ISE Design Suite」のアイコンをクリックすると、プロジェクトをまとめている「Project Navigator」が起動します。まだ、プロジェクトがない状態なので図のような表示になります。サンプルをロードして試してみましょう。Open Example のボタンをクリックします。



11. サンプルプロジェクトの選択

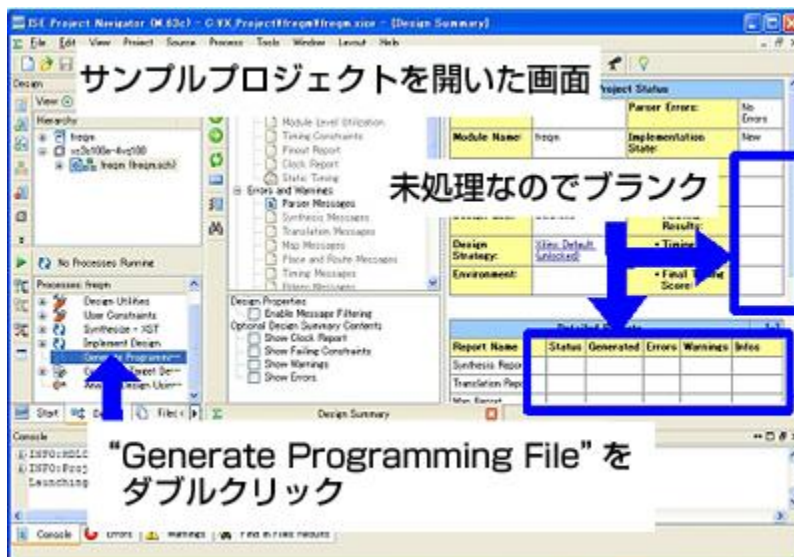
ここでは、「Frequency Meter」というサンプルを処理してみます。まず、図のリストから Frequency Meter を選択し、一番下のプロジェクトディレクトリを指定して、OK ボタンをクリックします。



12. サンプルプロジェクトを処理して、動作を確認する

サンプルプロジェクトは FPGA の設計に必要な HDL のデザインファイルや回路図、ピン配置など、デザインデータの入力が終わった時点でのプロジェクトと同等です。デザインを開くと、デザインサマリと呼ぶ表はほとんどの部分が空白になっています。これは未処理なので、表示すべきデータがないからです。このデザインを FPGA で使用できるように処理することを試してみましょう。

ここで、「Generate Programming File」というプロセスをダブルクリックして処理を開始します。このプロセスはビットストリームを生成するプロジェクト最終段階ですが、これをダブルクリックすることで、必要な全てのプロセスを最初から順に処理していきます。



処理が進むと、プロセス名の前にアイコン表示で処理の成功、不成功などを表示します。今回はサンプルなので下の図のようになります。緑の○印にチェックマークが入っているのが成功したプロセスになります。今回は Generate Programming File までが正しく終了しています。



以上で、開発ソフトウェアの導入テストは終了しました。FPGA
を設計できるツールを手に入れたので、たくさん設計してください。もっと深く知りたい方は、「ISE Design
Suite
ソフトウェアマニュアルおよびヘルプ」を参考にしてください。どこにどんな資料があるのか、デザインのカテゴリ
ごとにリンク先が書かれています。